



市内のバス事情

自家用車の普及により、特に地方都市ではバスを利用する人が年々、減少しています。しかし、「バスがなくなれば困る」という人も少なからずいるのも事実。

今回は、市内のバス事情について取材をしました。

市民リポーター 本間英子 近藤智子

路線バスのこと

路線バスの現状について秋北バスの営業所を訪ねました。

今、この地域を走る路線バスは10路線。お客さんの減少により路線数も減っています。10年前は100人ぐらいいた運転手も今は54人になっています。

お客さんが減少した主な原因は、自家用車の普及、少子化で学生の利用が減ったこと、中心市街地の求心力の低下などで、生活するうえでバスを乗る必要性がなくなったことが挙げられます。お客さんが減ると、バス会社の経営に響きます。バス会社でも採算が採れない路線を廃止したり、便数を減らします。それが利用者には不便となつて、お客さんは減るという悪循環が続きます。会社でも、相当の経営努力をしています。お客さんの減少は止まりません。路線バスについては、運賃収入以外にも、行政からの補助もあるもののなかなか採算が採れないのが現状のようです。

しかし、今でも、バスがなくなれば、買い物や通院、通学ができなくなるという人もいます。現在でも、朝のステーション発、組合病院行きのバスには、多くの利用者がいます。組合病院行きのバスには周辺町村からも路線バスを乗り継いで病院通いのお客さんもあります。通学で小学生が利用する場合も多く、市内の小学校からの乗車指

導の要請があれば、快く応じています。地域やお客さんを大切にしていきたいと秋北バスでは考えています。

好調な高速バス

今、一番元気なバスは、高速バスです。能代〜池袋間の高速バスは、便利さや運賃の安さで、安定した利用者数になっています。お盆や年末年始の帰省時期には増便運行も行うほどです。

能代〜秋田間の高速バスは、1日8便の運行数で、大人片道900円。約70分運行開始3年になり、利用者に浸透してきました。特に土日の利用者が多く、状況によっては、増便することもあります。高速バスは、大きな収入源となっています。

取材を終えて

バス会社、特に地方のバス会社は、利用者の減少により、全国的に大変苦戦を強いられています。

今は自家用車でも、この先、年をとつて運転ができなくなつたとき、バスなどの公共の乗り物に頼るかもしれません。将来、自分の子どもが通学で、公共の乗り物を利用するかもしれませぬ。そんなとき、バスがなくなつたらどうしましょう。

地域のバスって、実はだれにとつても身近な問題なのではないでしょうか。